

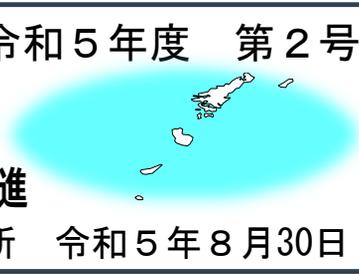


南の躍動

令和5年度 第2号

奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和5年8月30日



服務規律の厳正確保について

管理課

令和5年度の大島地区における教職員の事故発生状況において、交通事故、速度違反、体罰が発生しています。

令和5年1月18日に「学校職員の懲戒処分の指針」が改正され「不適切な指導、言動」に係る規定が追加されました。不適切な言動等については、令和4年12月に改訂された「生徒指導提要」において、部活動を含めた学校生活全体において、いかなる児童生徒に対しても決して許されないことであると明示されています。

また、令和5年4月1日の「学校職員の服務規律の厳正確保と学校における業務改善等について」の通知において、服務規律の厳正確保についての最初に「体罰、不適切な指導等の禁止」が挙げられています。

さらに、令和5年5月15日には、大島教育事務所長から「体罰及び不適切な指導等に関する緊急指導について」を通知しています。

これらのことを踏まえ、児童生徒の指導に当たっては、日頃から児童生徒の背景を十分に理解した上で、信頼関係を築き、児童生徒の人格を尊重した指導をお願いします。

○ 不適切な指導と考えられ得る例(生徒指導提要P105)

- ・ 大声で怒鳴る、ものを叩く・投げる等の威圧的、感情的な言動で指導する。
- ・ 児童生徒の言い分を聞かず、事実確認が不十分なまま思い込みで指導する。
- ・ 組織的な対応を全く考慮せず、独断で指導する。
- ・ 殊更に児童生徒の面前で叱責するなど、児童生徒の尊厳やプライバシーを損なうような指導を行う。
- ・ 児童生徒が著しく不安感や圧迫感を感じる場所で指導する。
- ・ 他の児童生徒に連帯責任を負わせることで、本人に必要以上の負担感や罪悪感を与える指導を行う。
- ・ 指導後に教室に一人にする、一人で帰らせる、保護者に連絡しないなど、適切なフォローを行わない。

- 鹿児島県教育委員会のホームページに「信頼される教職員・学校を目指して」(R5.6改訂版)が掲載されています。全職員で分担する研修や日常での積極的な活用をお願いします。



HPIに不祥事根絶対策が掲載されています。
「令和5年度の取組」から、本PDF版をダウンロードできます。

奄美の文化財等 “世之主(よのぬし)ロード” ～えらぶ世之主関連遺産群が紡ぐ、奄美・沖縄 交流の歴史！～

えらぶ世之主は、14～15世紀頃に沖永良部島を治めていた人物とされ、琉球北山との繋がりのある英雄として島では伝説が語り継がれ、島内各所に関連史跡等が所在します。それらは、当時の島の様子や琉球などの島外地域との交流の痕跡を色濃く残す歴史遺産です。このように、世之主を伝説にとどめず、この島や奄美・沖縄地域の歴史を紡ぐ上で重要なピースのひとつとらえ、和泊町教育委員会では、世之主の墓(県指定史跡)や世之主の城跡(町指定史跡)等の遺産群の要所を世之主ロードとして整備し、郷土教育や観光資源としての活用を図っています。



地区道徳教育研修会(喜界町立喜界小学校, 与論町立与論中学校)

今年度は、大島地区道徳教育研修会を2校で実施しました。3年ぶりの対面式の研修会となり、児童生徒が道徳科の授業の中でいきいきと自己の生き方について考える姿があったり、先生方が分科会の中で、積極的に意見交換したりと、大変、有意義な研修会となりました。この研修会での学びが、それぞれの小中学校で活かされ、大島地区の道徳教育が更に充実することを願っています。

喜界町立喜界小学校の取組 令和5年6月7日(水)

与論町立与論中学校の取組 令和5年6月22日(木)

研究主題 『伝え合う力を生かし、自己の生き方についての考えを深める子どもの育成』 ～キャリア教育の視点をもった「特別の教科 道徳」の授業を通して～	「特別の教科 道徳」の授業において、児童生徒が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、議論することを通して、自己の生き方について考えを深める指導方法は、どうあればよいか。
研究内容 ○ 子どもの実態を踏まえた、子どもに深く考えさせる発問の工夫 ○ 子どもが問題意識をもち、主体的に考える学習過程の工夫 ○ 自己の生き方についての考えを深めるための事後の取組の充実	○ 生徒が道徳的諸価値を「自分事」としてとらえ、理解を深めるためには、どのような手立てがあればよいか。 ○ 生徒が物事を多面的・多角的に考えるには、どのような手立てがあればよいか。
研修会の様子から ○ 学習指導案の中に、キャリア教育との関連が位置付けられ、授業の終末等でキャリア・パスポートを活用する場面が見られ、自己の生き方についての考えを深められるような工夫がなされていた。 ○ 学習過程において、道徳的価値を、資料を通して考える展開前段部分と資料から離れて自分のこととして考える展開後段部分が明確に分けられており、道徳的価値の自覚化を深めることができていた。 ○ どの学年にも発達段階に応じた対話活動が取り入れられ、児童たちが、自分にない新たなものの見方や考え方を獲得する場がきちんと設定されていた。	○ それぞれの学年の学習指導案の中に、発問の工夫、話し合いの工夫、書く活動の工夫、表現活動の工夫等が分かりやすく明記されていた。 ○ 授業の導入部分、展開部分、終末部分においてICTの活用が積極的になされており、生徒が価値の自覚化を深めるツールとしての活用が効果的であった。 ○ 生徒が物事を多面的・多角的に考えるための手立てとして、交流活動や対話活動等が取り入れられており、自分以外の友達の考え等を知ったり、学んだりすることができていた。



臨時的任用教職員研修会(奄美市立朝日小学校)

6月14日(水)に、公立小、中学校において本県で初めて任用された臨時的任用教員の先生方を対象に、教育公務員としての使命やサービスを自覚し、指導力及び資質の向上を図るため、奄美市立朝日小学校にて本研修会が開催されました。

【研修の内容】

- 1 先輩授業参観(2年国語科, 4年体育科, 6年算数科)
- 2 所長講話「教師の魅力, 教師としての心得」
- 3 管理課長講話「教育公務員の使命とサービスについて」
- 4 指導課講話「学習指導, 生徒指導, 特別支援教育」
- 5 ワークショップ(教科等の授業づくり)

【参加者の感想】

- 働き始めて約2ヶ月が経ちましたが、分からないことだらけで、毎日があっという間に過ぎ、じっくり考える時間がありませんでした。今回の研修で、学校の疑問や、授業づくりの工夫など、たくさん学ぶことができました。これからはがむしゃらに進んでいきます。
- 教員としてどうあるべきか、分かりやすく楽しく話していただき、「そんな教員になりたい!」「頑張ろう!」と思うことができました。子供たちに寄り添うことのできる教員になれるよう頑張ります。
- 他の人の意見を聞いたり、最新の教育事情や今後の展望について教えていただいたりしたことが勉強になりました。

